第52回臟器移植委員会 参考資料 5 2021.2.26

2020. 11. 11. 肝腎合同作業班資料 一部改訂

肝腎同時移植における 腎臓移植希望者選択基準について

現行の肝・腎単独レシピエント選択基準

	肝臓	腎臓
適合条件前提条件	(1) ABO式血液型(2) 前感作抗体(3) HLA型(4) 搬送時間*(2) (3) は検査・登録するが選択基準ではない	(1) ABO式血液型 (2) リンパ球交叉試験 (全リンパ球又はTリンパ球): 陰性 (4) C型肝炎ウイルス (HCV) 抗体 C型肝炎抗体陽性の臓器提供者 (ドナー) から提供された腎臓は、 C型肝炎抗体陽性の移植希望者 (レシピエント) のみを対象とし、リス クについて十分に説明し承諾を得ら れた場合にのみ移植可能とする。
優先順位	(1)親族優先 (2)18歳未満 (3)血液型 (一致>適合) (4)医学的緊急性	(1)親族優先 (2)20歳未満 (3)血液型 (一致>適合) (4)合計点数 (搬送時間、HLA適合度、待機日数、 未成年者)

肝腎同時移植における HCV抗体陽性ドナーのあっせんについて

- ○日本臨床腎移植学会理事会(2020年7月)および 日本肝移植学会常任世話人会(2020年6月)において、 下記、腎移植のレシピエント選択基準の変更を提案、全員の賛同を得た。
- (4) C型肝炎ウイルス(HCV)抗体 C型肝炎抗体陽性の 臓器提供者(ドナー)から提供された腎臓は、C型肝炎抗体陽性の 移植希望者(レシピエント)のみを対象とし、リスクについて十分 に説明し 承諾を得られた場合にのみ移植可能とする。 ただし、肝腎同時移植希望者(レシピエント)の場合には、 C型肝炎抗体陰性の移植希望者(レシピエント)も対象とし、 慎重に適応を決定したうえで、移植を実施する。
 - ○令和2年7月、日本移植学会から 肝腎同時移植の際の、HCV抗体陽性ドナーの場合の 腎臓あっせんの選択基準変更に関する要望あり。

本邦の肝腎同時移植希望者(レシピエント)の現状

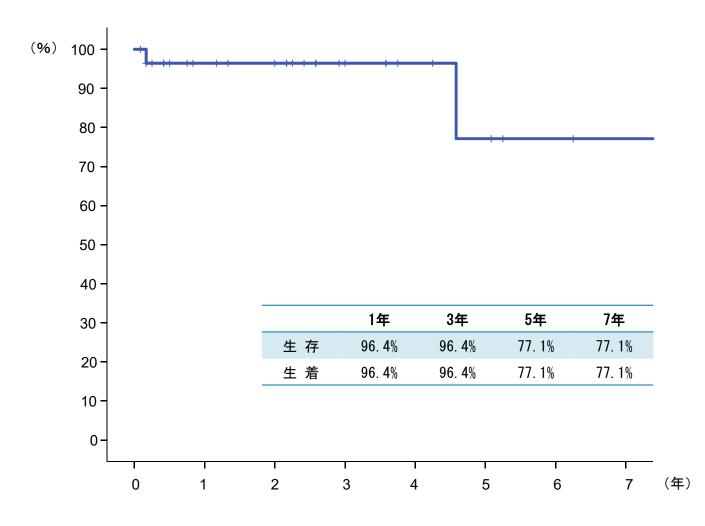
2020年09月30日現在

	心臓	肺	肝臓	腎臓	膵臓	小腸
現登録者数	859	432	338	12,850	194	5
内、心肺同時	5	5	-	-	-	-
内、肝腎同時	-	-	38	38	-	-
内、肝小腸同時	-	-	2	-	-	2
内、膵腎同時	-	-	-	152	152	-

https://www.jotnw.or.jp/data/



肝腎同時移植生存率·生着率 (2012年9月~2020年9月、N=29)





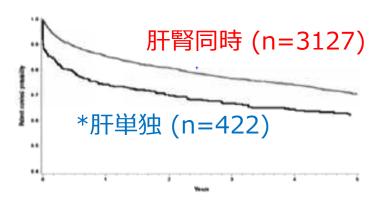
肝腎同時移植の成績 -肝単独移植との予後比較-

✓ 肝・腎同時移植を要するレシピエントにおいて 肝腎同時移植は肝単独移植より予後良好である。

UNOS database 解析

1. 肝腎同時移植登録症例: 1994年-2011年

*肝単独:肝腎同時移植希望も肝のみ移植となった症例 24%が肝移植後に腎移植を実施された。



5年生存率

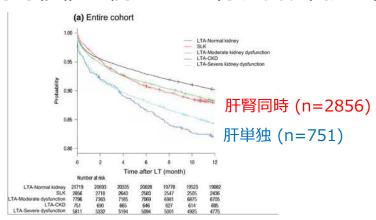
76% vs. 55%, p<0.0001

術後2日以内死亡率

0.5% vs. 11.4%, p<0.0001

Hmoud B et al. Transplantation. 2015

2. 肝腎同時移植症例と*CKD有する肝単独症例の比較:2009年-2015年



(2015年の肝腎同時移植率は9.4%)

*CKD: 90日以上GFR ≦ 60ml/minが継続し、申請時に≦30ml/min

1年生存率

87.8% vs. 82%, p<0.001

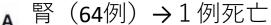
Nagai S et al. Transplant Int. 2018

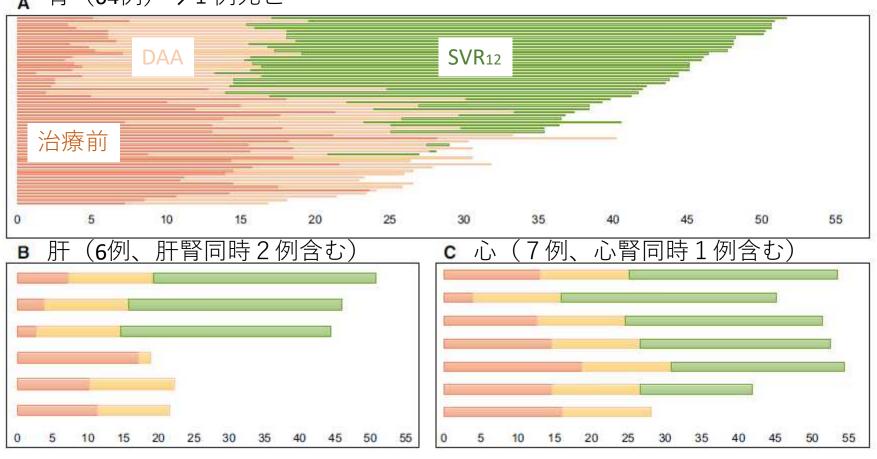
HCV抗体陽性ドナー症例の予後

- ○肝・肝腎同時移植19症例(肝腎同時7例含む)
 - ・HCV-NAT(+)ドナー13例 →13例全例にHCV感染を認めDAA治療施行、12例でSVR₁₂達成。
 - ・HCV-NAT(-)ドナー6例 →術後HCV感染症例なし * 肝腎同時症例1例死亡(HCV感染とは無関係)
- ○腎移植症例17例
 - ・HCV-NAT(+)ドナー13例
 →11例にHCV感染を認めDAA治療施行、
 7 例でSVR₁₂達成、2 例治療終了時点、2 例治療中。
 - ・HCV-NAT(-)ドナー 4 例 →術後HCV感染症例なし

HCV抗体陽性ドナー症例の予後

HCV-NAT陽性ドナーからHCV抗体陰性レシピエントへの77例の固形臓器移植後の経過





術後のDAA治療により50例がSVR12を達成している(検出感度以下10例)。

Kapila N et al. Hepatology 2020.